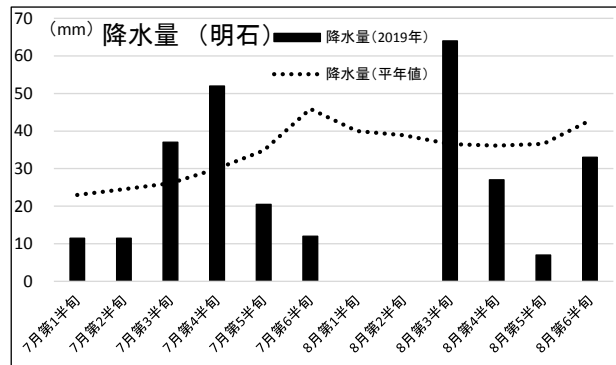
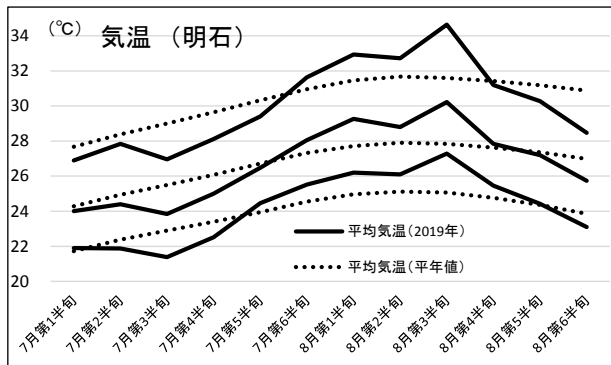


令和元年度 東播磨地域稲作気象台情報 第3号

発行：令和元年9月6日
東播磨農業改良普及事業協議会

1. 気象状況 (気象庁データ [明石]：7月～8月)

7月の気温は平年よりもやや低く経過しましたが、8月は一転、平年よりも高く経過しました。梅雨明け後、7月28日から8月13日にかけて降雨がありませんでしたが、台風10号が接近した15日から16日にかけては、90mm近くの降水量がありました。



2. 生育状況 (県立農林水産技術総合センター [加西] の気象感応調査結果：8月15日現在)

品種	調査日	草丈	莖数	葉数	出穂期
キヌヒカリ	8月5日	92cm (平年比98)	399本/m ² (平年比111)	12.9枚 (平年差-1.0)	8月6日 (平年比-1)
ヒノヒカリ	8月25日	101cm (平年比107)	425本/m ² (平年比103)	16.5枚 (平年差+0.4)	8月29日 (平年比0)

3. 病虫害発生程度 (東播磨管内ヒノヒカリ13定点ほ場での予察調査結果：9月5日実施)

	本田払い落とし					本田すくい取り				
	ヒメビウンカ	セジロウンカ	トビロウンカ	ツマグロヨコバイ	フタオビコヤガ	ヒメビウンカ	セジロウンカ	トビロウンカ	ツマグロヨコバイ	カメムシ類
明石播磨	少	少	無	中	無	少	中	無	多	少※
稲美	少	少	無	無	無	少	中	無	無	無
加古川北部	少	中	無	少	無	中	少	無	無	中※
高砂・加古川南部	少	少	無	少	少	中	中	無	甚	少※

	病害調査							虫害調査 (見取り)			
	葉いもち病	穂いもち病	紋枯病	縞葉枯病	ばか苗病	もみ枯細菌病	稲こうじ病	ニカメイガ	イネミズゾウムシ	イネツトムシ	コブノメイガ
明石播磨	無	無	少※	無		有	無	無		無	無
稲美	無	無	少	無		無	無	無		無	無
加古川北部	無	無	無	無		無	無	無		無	無
高砂・加古川南部	少	無	少※	無		無	無	無		無	無

※発生・発病程度が「甚」でも時期によっては問題ありません。要防除密度のほ場がある地域は赤太文字で※印を付けています。(例：甚※)

トビロウンカの発生は見られませんでした。また、ほとんどの定点においてウンカ、ヨコバイ類の発生が確認されましたが、要防除密度となっているほ場はありませんでした。

斑点米カメムシ類は、管内4カ所の定点で要防除密度の発生となっています。
紋枯病は、管内6カ所の定点で発生が見られ、4カ所で要防除密度となっています。

4. 今後の栽培管理について

(1) 病害虫防除

<トビイロウンカ（秋ウンカ）>

今回の予察調査で発生は確認されませんでしたでしたが、九州を中心に広く西日本一帯でトビイロウンカ発生に関する警報や注意報が出ています。ヒノヒカリ等の普通期栽培品種は、収穫まで1カ月以上あるため、特に注意が必要です。9月上旬に1株当たり2頭以上の発生の場合、収穫までに「坪枯れ」が発生し、減収や品質低下につながる可能性があります。また、9月下旬まで高温が続くと発生を助長します。1株当たり5頭以上発生している場合は、直ちに防除を実施しましょう。なお、トビイロウンカは主に株元に生息していますので、発生していないか注意して観察しましょう。



<斑点米カメムシ類>

これから乳熟期を迎えるヒノヒカリ等では、斑点米の原因となるカメムシ類への対策が重要です。前回の調査に引き続き、要防除密度のほ場が見られますので、基幹防除をしていないほ場は早急の実施しましょう。なお、カメムシ類への薬剤防除は、ウンカ類やツマグロヨコバイへの効果も期待できます。粉剤等を使用する場合は、薬剤が株元までしっかり届くよう丁寧に散布しま

<紋枯病>

小判型の病斑が水際に近い葉鞘に現れ、下葉から次第に枯れ上がります。7～8月に発生し、高温多湿条件が長期間続くほど多発生となります。葉鞘が紋枯病に侵されると倒伏しやすくなり、ひどいときには50%の減収となります。穂ばらみ期に、2割以上の株に病斑が見られる場合は、防除を実施しましょう。

<縞葉枯病・ヒメトビウンカ>

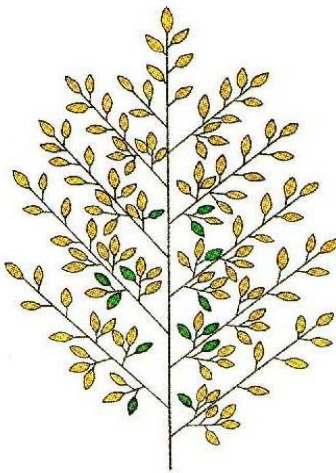
近年、ヒメトビウンカがウイルスを媒介する縞葉枯病が問題となっています。感染株は「出すくみ症状」や「ゆうれい症状」が見られるので、株ごと抜き取りほ場の外に持ち出し処分しましょう。また、ヒメトビウンカの越冬虫を減らすために、稲刈り後は積極的にほ場を耕起しましよ

<ばか苗病>

ばか苗病は種子伝染性の病害です。胞子は100m程度飛散し、感染した株のもみ殻やワラが伝染源になります。発病の見られたほ場やその周辺のほ場では自家採種を控え、種子を更新しましょう。また、ワラなどを残さないよう施設や機械をしっかりと清掃し、浸種用の容器、育苗箱、播種機などは消毒を徹底しましょう。

◎**薬剤使用にあたっては、ラベル記載の適正使用基準を遵守し、隣接作物等へのドリフト防止に努めましょう。**

(2) 水管理・刈取り <ヒノヒカリ>



根の活力を維持するため、収穫の1週間から10日前まで間断灌水を継続しましょう。気温が高く、落水時期が早いほど、乳白粒や腹白粒、未熟粒などが増え、整粒歩合が低下する傾向があります。品質低下を避けるために、早い時期からの落水は控えましょう。落水後に乾燥が続くようであれば、走り水を実施しましょう。

刈り取り時期の目安は、出穂後40～45日頃、籾の黄化率（黄色に色づいた籾の割合）が85～90%になった頃です。刈り遅れは、胴割れ米や穂発芽の発生、玄米の光沢落ち、茶米の増加の原因となるので、ほ場や稲の成熟状況をよく確認し、**適期収穫**に努めましょう。

※兵庫県農業気象技術情報サイトへのアクセス方法

兵庫県ホームページトップ画面より、「食・農林水産」⇒「農業」⇒「農産物」⇒「農業気象技術情報」と進んでください。

もしくは、「農業気象技術情報」で検索して下さい。
http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000097.html

収穫適期（青籾率10%）

発 行	東播磨農業改良普及事業協議会 (構成員：明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町 JAあかし、JA兵庫南、JA加古川南 加古川農業改良普及センター)
調査協力	NOSAI東播磨、NOSAI兵庫、JA全農兵庫
お問合せ先	加古川農業改良普及センター 地域課 (079) 421-9354 JAあかし 本店 経済課 (078) 934-5800